

## 平成 30 年度 奈良県知事賞

人を救いたい

奈良育英高等学校 二年 水口 華奈

私はこの夏、プレゼンテーション大会を通して、カンボジアのモニーという一人の女性に出逢い、カンボジアは深刻な問題があることを知った。私は、「税なんかそんなに多く払う必要はない。」と思っていた。なぜなら、税の大切さを知らなかったからだ。しかし、モニーと話をし、その思いが変わった。

カンボジアは昔、ポル・ポト政権の虐殺があり、多くの教員、知識人、驚くことに、メガネをかけている人でさえ殺され、カンボジアから教育がなくなった。モニーの話によると、今も尚、その影響で貧困に苦しんでいる人が沢山いるようだ。モニーはその問題について熱い眼差しで語ってくれた。その話の中で最も衝撃的だったのが子供達でさえ、教育を受けずに働いているということだ。ホテルマンをしている子供がいる事が当たり前であり、道を作る為に採石場で働いている子供達がいる。私たち日本人からしたら、想像もできない有り得ない状況であることを知った。私はこの話を聞いてから、すごく惨めに感じ、そんな人々を助けることはできないだろうかと深く考え、自分達が身近にできることは、税を納めることだと知った。

私は、税は日本の為だけにしか使われていないというステレオタイプがあり、税が八パーセントになった時は、反感があった。しかし、モニーと出逢って、税に関心を持ち、経済協力費というものがあることを知り、前まであったステレオタイプが無くなった。経済協力費は、カンボジアなどの発展途上国の自立を支援しており、少しでも人々の救いとなっている。マララが言っていた、「一本のペン、一人の先生、一冊の本があれば、世界を変えることができる」という言葉は、私たちの税で実現ができると考える。私たちが教育を受け、働き、税を納めることで、教育を受けることができない子供たちに、教育を与えることができ、その後、良い仕事にもつくことが可能になると思う。税を通して、良いサイクルを築くことができる。

私はもっと沢山のの人に税の大切さを知ってほしい。なぜなら、多くの人が、「なんでこんなにも多くの税を払う必要があるんだ。」と思っているからだ。しかし、世界にこのような問題があり、日本は協力しているという事を知れば、その思いは少しでも変わると考える。私はモニーとの出逢いがあったから、税は世界中の人を救うことができると知り、そして税の大切さを身に染みた。「人を救いたい」という私の願いは税を通して救えることを知った。